4. ORBIXにおけるタウン撮影法の検討

Study Of Towne Projection For ORBIX

杏林大学医学部附属病院
放射線部

○若原ひとみ

(Hitomi Wakahara)

清水則一

(Norikazu Shimizu)

大戸真喜男

(Makio Ooto)

阿部隆志

(Takashi Abe)

加藤匡伸

(Masanobu Katoh)

大里昭司

(Shouji Oosato)

〈目的〉ORBIXは、X線が常にカセットに対して垂直に入射する特長がある。このためORBIXによるタウン撮影法は、従来のタウン撮影いわゆるカセットに対して斜入させる方法に比べ、いくつかの問題があった。今回新たにORBIXのカセットアーム部を作製し、タウン撮影について検討したので報告する。

〈構造及び使用方法〉新たに作製したカセットアーム部はチェンジレバー、角度制御盤、オートロックバーより構成される。チェンジレバーは、カセットアーム部の回転軸をロックしたり緩めたりする。角度制御盤は、真鍮製で扇型をし下縁は波形にしてある。この波形の溝にオートロックバーが入ることによって各角度が確実に決定される。角度の設定範囲は、 10° ごと $-30^{\circ} \sim +30^{\circ}$ までとした。使用法は、最初にチェンジレバーを緩め、カセットホルダーを管球と同じ角度に回転させ、チェンジレバーでロックし操作は完了する。今回作製したカセットアーム部を使用し、2種類のタウン撮影について比較した。

〈結果及び考察〉ORBIXのタウン撮影は、後頭から頭頂にかけてカセットが斜めに離れている。また従来のタウン撮影は、X線がカセットに斜入となる。当院の臨床医による比較の結果、頭頂部付近の頭蓋内圧亢進による矢状及び冠状縫合の離開、導出血管孔の拡大等において従来のタウン撮影の方がより有用との判断を得た。ORBIXは、頭部精密X線撮影装置として優れた機能を持つ装置であるが、今回新たに作製したカセットアーム部を使用することにより、ORBIX本来の機能を損なうことなく従来のタウン撮影が可能となった。又、チェンジレバー、角度制御盤、オートロックバーにより簡単な操作で再現性のある撮影が可能となった。

《カセットアーム部》

ORBIXタウン

従来のタウン

ORBIXタウン

従来のタウン

《臨床例》

《装置外観図》